

記載例

安全計画書				Ⅲ. 基本的な施行計画	
Ⅰ. 工事計画概要				1 工事施行手順の概要 (概念図)	
1 工事名称	〇〇病院増改築工事			※ 詳しくは、別添図面や工程表に記すので、ここでは、工事の全容を概念的に示す。 とくに、増築工事で既存部分の改修を伴うような場合には、火災危険を建物内各所に分散させないため、ある範囲内ごとに工事を完結させてから次の部分に着手すること。	
2 工事場所	〇〇県〇〇市〇〇町1-1-1				
3 工事種別	増築およびこれに伴う既存棟の改修				
4 建築概要	イ 用途	病 院	口 構造		
() 内の数字は 既存棟部分を示す	ハ 高さ	軒の高さ 23.7 m 最高の高さ 26.0 m (10.1 m) (13.2 m)			
	ニ 階数	地上 6 階・地下 1 階・塔屋 1 階 (3) (1) (0)			
	ホ 建築面積	6,086.8 m ² (3,012.8 m ²)	ハ 延べ面積	17,166.8 m ² (6,880.4 m ²)	
5 昇降機・ 建築設備又は 工作物の概要	増築工事完了後、既存部分の非常照明、誘導灯、自動火災報知設備、スプリンクラー設備、屋内消火栓設備等の整備を行う。 ※避難施設等に係る工事がある場合にのみ、その内容を記入すること。			2 工事区画の位置及び構造 別添図面に (工事区画の位置は朱線で) 表示 ※ 工事の規模が大きい場合や、複雑な工事の場合、区画の種類やディテールをわかりやすく図面に標記すること。	
Ⅱ. 仮使用承認申請部分				3 工事工程 別添工事工程表に表示 ※ 仮使用部分と、工事施行部分の相互の安全性を図るよう、工程を計画すること。	
1 使用部分	別添図面に黄緑色で表示			4 工事用資材等の搬出入及びその管理方法 ① 別添図の如く工事施行範囲と使用している部分の区画を明確にし、外部に一次仮置場を設ける。 ② 上階搬入のために荷物用 (非常用兼用) エレベータを使用するので、一般使用と分けて夜間20:00以降および休日とする。 ③ 可燃用資材等は必要最小限の搬入とし、1ヶ所当りの総量も余り大きくならない様分散配置を心掛ける。 ④ 工事現場内の整理、整頓を心掛け、残材、ゴミ等は1日の作業終了後、外部へ搬出する。 ※ 工事用資材等の搬出入経路を添付図面に矢印で表示し、また居住者動線、工事者出入口、資材搬出入経路を安全に区画されていることを表現すること。	
2 用途	第1次 A、B部分 第2次 C部分	3 申請面積	概ね 6,320 5,650 m ²		
(注 意)					

(注) 1「工事名称」、2「工事場所」、3「工事種別」は、確認申請に標記のものと同じにすること。

IV 工事により機能の確保に支障を生じる避難施設等、その他の安全施設等及びその代替措置等					
	種 類	箇 所	工事期間及び時間	代替措置の概要	管 理 の 方 法
1 避 難 施 設 等	イ 廊下その他の通路	3階で避難経路変更	全工事期間中	○仮設仕切りによって専用通路を確保 ○仮使用部分において現行法規を満足できる。 ○店舗閉店後施工する ○消火器の重点配置 ○工事部分を耐火1時間構造の仮囲で区画する。 ○仮囲の出入口は甲種防火戸とする。	○従業員への連絡を徹底する。 ○作業中および終了後の店内巡視を行う。 ○この部分の工事を優先して行い、仕上工事中にはシャッターが作動できるようにしておく。
	ロ 直通階段等	3階で一カ所のみ階段使用	同上		
	ハ 地下道等				
	ニ スプリンクラー設備等	3階図中A部分、作動不可	○月○日○時～○時		
	ホ 排煙設備	同上	同上		
	ヘ 非常用の照明装置	同上	同上		
	ト 非常用の昇降機				
	チ 防火区画	3階防火シャッター取替中に、A、B間の区画が成立しない。			
2 そ の 他 の 安 全 施 設 等	イ 消防用設備等 (1に含まれるものを除く。)	○自動火災報知設備 仮使用部分全域	全工事期間中	○仮設の感知器、火災報知器を設置する。 ○工事中用仮囲いで囲い危険のないようにする。	通路に障害物が置かれないう管理する。
	ロ 非常用の進入口				
	ハ その他	○敷地内通路が1,3mしかとれない。			

- (注)
1. 使用する部分において支障をきたす項目のみ記入。
 2. 「箇所」には、支障が生じる階と支障の内容、数等も記入。
 3. 「工事期間及び時間」には、支障の生じる期間を記入。
 4. 「代替措置の概要」には、必要に応じ別図で表現する。
 5. 「管理の方法」には、危険を伴う作業等の安全管理方法を記入。

